

## プログラム A



### バウハウス 原形と神話

監督：ニールス・ボルプリンカー、ケルスティン・シュトゥッテルハイム 出演：ヴァルター・グロピウス、ヴォルフ・ヒルデブランド、ゲルトルト・アルント、フーベルト・ホフマン、ピウス・パール

●1999・2009/ドイツ/103分/原題：Bauhaus - Modell und Mythos

超一流の才能が集い、芸術全般に革命を起こしたバウハウス。その軌跡は神話となったが、そこには時代の波に翻弄された芸術家たちの喜びや苦闘、そして光と影があった。伝説的な教師達の薫陶を受けた当時の学生達の証言や、貴重な記録によって、バウハウスがたどった激動の道と知られざる物語が明かされる。

## プログラム B



### バウハウス・スピリット

監督：ニールス・ボルプリンカー、トーマス・ティエルシュ 出演：トルステン・ブルーメ、ローザン・ボッシュ、アルフレード・ブリルンブル、シュテファン・コヴァツ、フーベルト・クルンブナー

●2018/ドイツ/52分/原題：Vom Bauen der Zukunft-100 Jahre Bauhaus

スウェーデンの教室も時間割もない学校、ヴェネチア・ヴィエンナーレ金獅子賞のアーバン・シンクタンクが取り組む南米スラム街の住環境改善、低価格でバウハウス家具を複製する企画、バウハウスの理論を身体で表現する試みなど、豊かな発想と斬新な手法で注目される人々を追い、現代に生きるバウハウスの精神を映し出す。



### バウハウスの女性たち

監督：ズザンネ・ラデルホーフ 出演：エリザベス・オットー、テレジア・エンツェンスベルガー、モニカ・シュタードラー、パトリック・レスラー、アーニャ・バウムホーフ、エレナ・マカロワ

●2019/ドイツ/44分/原題：Bauhausfrauen

当時最も先進的な芸術学校であったバウハウスは「年齢、性別に関係なく、誰もが学ぶ権利を持つ学校」と高らかに謳った。それは女性にも芸術の可能性を与える宣言となるはずだった。だが現実には簡単ではなかった。実は男性優位のバウハウスで、多大な成果を残したにも関わらず、影の存在となった女性たちの実像に迫る。

## プログラム C



### ミース・オン・シーン

監督：ベップ・マルティン、シャビ・カンプレシオス 出演：ルートヴィヒ・ミース・ファン・デル・ローエ、フリッツ・ノイマイヤー、エドゥアルド・メンドーサ、バリー・バグドール、オリオル・ポイーガス

●2018/スペイン/58分/原題：MIES ON SCENE

近代建築の三大巨匠の一人、ミース・ファン・デル・ローエ。彼の代表作でありモダニズム建築の最高峰と称される「バルセロナ・パビリオン」。この建物がなぜ今も語り継がれる傑作となったのか。その後バウハウス校長に就任するミースの建築思想とは。当時の記録と、現代の一流の建築家や学者などの証言で検証する。



### ファグスー グロピウスと近代建築の胎動

監督：ニールス・ボルプリンカー 出演：アンネマリー・イエギ、エルンスト・グレーテン、ヴァルター・シャーバー、エビファニオ・ディ・ロレンツォ

●2011/ドイツ/27分/原題：Fagus- Walter Gropius und die Fabrik der Moderne

バウハウス開校8年前、初期モダニズム建築の傑作「ファグス靴型工場」が建てられる。若き日のグロピウスは“労働者のための宮殿”を作りたいという工場主の夢を実現させるべく、新時代の工場を作り上げた。世界遺産に登録された今もなお、現役で稼働しているガラス張りの工場はなぜ生まれたのか。その歴史を追う。

## プログラム D



### マックス・ビルー 絶対的な視点

監督：エーリヒ・シュミット 出演：マックス・ビル、アンゲラ・トーマス、ゴットフリート・ホーネッガー、イニャツィオ・シローネ

●2008/スイス/94分/原題：Max Bill - das absolute Augenmaß

彫刻家、画家、建築家、デザイナーなど、幅広く活動したマックス・ビル。バウハウス最後の巨匠とも言われる彼は、バウハウスで学び、後にその理念を受け継ぐウルム造形大学の初代校長を務める一方、政治活動にも積極的に関与し激動の人生を送った。彼が追求した芸術とは何か。その生涯と思考に触れる。

## プログラム E



©Alvar Aalto. Photographer: Alvar Aalto.

### ニュー・バウハウス

監督：アリサ・ナーミアス 出演：オリヴァー・ポタール、パーバラ・クレーン、オラファー・エリアソン、ラースロー・モホイ＝ナジ

●2019/アメリカ/89分/原題：The New Bauhaus

ハンガリー出身の画家、写真家、美術家で、後世の視覚造形芸術に多大な影響を与えたラースロー・モホイ＝ナジ。彼はアートにテクノロジーを積極的にとり入れるという構成主義的な姿勢で、バウハウスの発展に貢献した。その後、米国でニュー・バウハウスを創設し、米国のデザイン教育にも足跡を残す。最新の研究を元に、彼の理念や業績、ニュー・バウハウスの展開、そしてその素顔が明かされる。

### 小崎哲哉 (おさき・てつや)

ジャーナリスト/アートプロデューサー

1955年、東京生まれ。ウェブマガジン『REALKYOTO』発行人兼編集長。京都芸術大学大学院教授。同大舞台芸術センター主任研究員。愛知県立芸術大学非常勤講師。同志社大学非常勤講師。2003年に和英バイリンガルの現代アート雑誌『ART iT』を創刊し、編集長を務めた。展覧会のキュレーションも行い、あいちトリエンナーレ 2013ではパフォーミングアーツ統括プロデューサーを担当。編著書に『百年の愚行』『続・百年の愚行』、著書に『現代アートとは何か』がある。2019年にフランス共和国芸術文化勲章シュヴァリエを受章。2020年末に『政治権力と現代アート』（仮）を河出書房新社より刊行予定。【ウェブサイト】 <http://realkyoto.jp/>



### 高木穂子 (たかぎ・まりこ)

同志社女子大学准教授/グラフィックデザイナー

ドイツ・デュッセルドルフ生まれ。2012年ドイツ・ブラウンシュヴァイク美術大学で博士号、2014年英国レディング大学で修士号を取得。2010~2016年香港バプティスト大学助教授、2017年4月より同志社女子大学学芸学部メディア創造学科准教授。専門はタイポグラフィとブックデザイン。他に、グラフィックデザイナー、著述家と研究者として活動。ドイツエディトリアルブックデザイン財団、ADC、レッド・ドット・デザイン賞、iFデザイン賞などを受賞。2019年末に『Yamawaki Michiko - eine japanische Bauhaus Geschichte (山脇道子：一つのバウハウス物語)』ベルリンの出版社 form+zweck より刊行。【ウェブサイト】 [www.mikan.de](http://www.mikan.de)



### 会場：

京都文化博物館 4F フィルムシアター

〒604-8183 京都市中京区三条高倉

TEL.075-222-0888 FAX.075-222-0889

### 会場アクセス

- 地下鉄「烏丸御池駅」下車【5】番出口から三条通りを東へ徒歩3分
- 阪急「烏丸駅」下車【16】番出口から高倉通りを北へ徒歩7分
- 京阪「三条駅」下車【6】番出口から三条通りを西へ徒歩15分
- JR・近鉄「京都駅」から地下鉄へ
- 市バス「堺町御池」下車、徒歩2分

主催：Brand new day

共催：ディレクターズ・ユニブ/京都文化博物館

協力：Lumen gallery/Tazz

特別協力：語学と文化の学校 スコラールム

後援：ゲーテ・インスティトゥート大阪・京都

お問合せ：info@brand-newday.jp  
080-6169-0226



詳しくは・・・<https://brand-newday.jp/>